

【3】清水地区ってこんなまちです

(清水地区の歴史)

清水地区は佐世保市のほぼ中心部に位置し、約7千人の住民が生活しています。中央には佐世保川が流れ、その右岸には大開川や石坂川、清水川、福田川、左岸には折橋川など小さな川が流れ込んでいます。

この付近には昔からわずかな集落があり、戦国時代には佐世保川を挟んで鼻線城（現保立公園）と佐世保城（城山町東の崖）が築かれていました。

また、江戸時代には、中通免と横尾免、折橋免と八反間免、その免の中に小字がありました。小字は今の町や地区と言うべきもので、現在の町名はその小字に由来しています。例えば宮田町は八幡宮の社領地字宮田、俵町は字俵石、梅田町は字梅ノ木田、保立町は字保立目、石坂町は字石ノ坂、清水町は字清水ノ本、中通町は中通免、福田町は字福田（仏供田）、万徳町は字万徳地原からきています。八幡町は亀山八幡宮の鎮座、また城山町は佐世保城からきているようです。

さらに平戸往還が整備されるとともに、一里塚や松並木が整えられ、佐世保市の中心地である八幡町付近には、相神浦筋郡代役所がおかれ、庄屋などもありました。

明治22年（1889年）、佐世保海軍鎮守府が開庁すると、多くの人々が佐世保に住むようになり、川治いや山の手新しい市街地ができました。庄屋跡にあった佐世保小学校（後の八幡小）は、現在の市役所付近に移転したあとさらに現在の北高グラウンドに移されました。また、この頃に旧佐世保中学校や成徳高等女学校、大正期に商業学校、保立小が創立されました。

明治35年（1902年）には、市制が施行され佐世保市となり、市役所が建設されました。周辺には道路や町並みが整備され、軍人や工廠の職工、官吏の住宅、商店街ができました。戦後は八幡小、清水中、佐世保北高が開校し、若者や子どもが溢れていました。

以後60有余年が経った現在でも、落ち着いた風土と人の触れ合いを大切にする地域です。

★清水地区って……どのあたりをいうの？

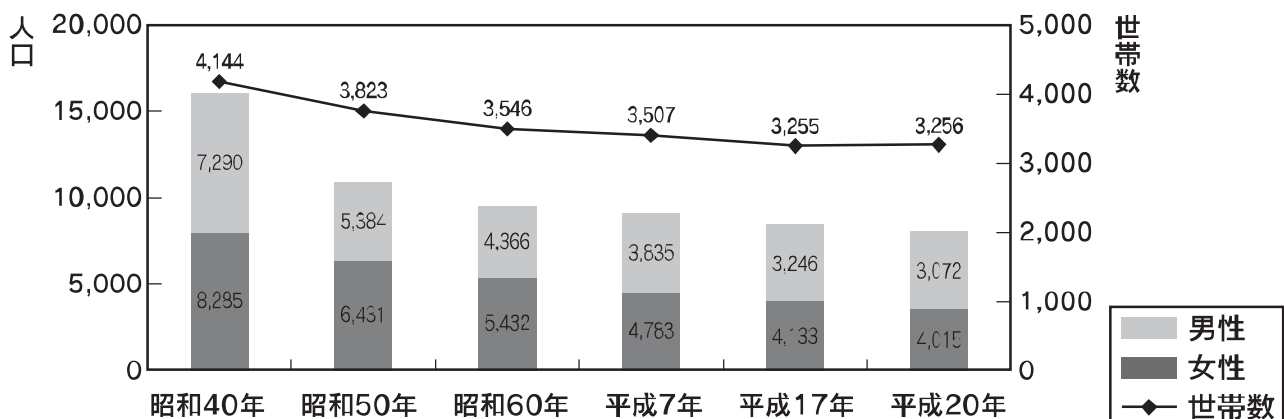
現在、清水地区と呼ばれる範囲は、次のとおりです。

町名	八幡町	城山町	宮田町	俵町	梅田町	保立町	石坂町	清水町
	中通町	福田町	万徳町					

〔佐世保市における清水地区の位置〕



(清水地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



(清水地区“わがまち自慢”)

清水地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

縄文人の生活した中通洞穴

中通町に小字屏風岩ひょうふういわがあり、切り立った断崖の下に将冠岳から流れ出る清流が抉った小さな洞穴があります。

この洞穴は、昭和42年頃、清水中学校2年の石橋君が発見したもので、「中通洞穴」と命名されました。

ここには約4千年前の縄文時代中期の頃に洞穴人が生活していて、弓張や将冠の山々のドングリやマテ、クリ類、さらに猪・兎・鹿類、佐世保川や海での魚介類など大自然の恵みが、彼らの大切な食糧源でした。

この洞穴からは大量の黒曜石の矢じりや土器が出土しており、それらの遺物は島瀬美術センターに収蔵されています。



中通洞穴

蛍の名所 大開川

将冠岳に流れを発する大開川は、旧市内で蛍の群れを見ることのできる貴重な場所です。

かつて夏の到来を告げる蛍は、各地の小川せいでくに棲息していました。その蛍の発する光に日本人は心を動かされ、「蛍の光窓の雪」、「蛍雪の功」と努力することの大切さを語りました。初夏の夜に、多くの子どもや大人が川で蛍を観ることで、自然の豊かさや暖かさそして風情を感じていたものです。

残念ながら、清流を好んで棲む蛍や多くの虫たちは、川の汚れが原因で次々にその姿を消してしまいましたが、大開川には昔の風景が見事に蘇っています。



大開川

戦国の世を彩る佐世保の城主たち

戦国の昔、佐世保城主は佐世保諫いさほという人でした。諫の兄は瀬戸越にあった大智庵城の宗家松浦政、妻は平戸松浦興信の妹でした。その平戸松浦と宗家松浦が激しい戦をしました。それが明応7年(1498年)の大智庵城の攻防です。その戦で政は落命しましたが、諫は援軍を送っていません。やがて諫は享禄元年(1528年)に他界し、妻は尼となり永林えいりんと号しました。

後の城主に遠藤但馬守えんとう だまのまもりとその娘婿である赤崎伊予守あかざき いよのまもりがいます。但馬は謀反の疑いで松浦親に討たれますが、村人は但馬を慕い神社に祭っています。のちに伊予は居館を中通に移し、小川内へ隠居しています。



左側丘に鼻線城、
右側に佐世保城がありました。

役夫死者の碑と児童遊園の碑

八幡町の西方寺入口に「役夫死者の碑」があります。軍港建設の礎となり、作業中に命を落とした人たちを祭ったものです。明治21年(1888年)鎮守府開庁の前に、村の有志が役夫の人たちの尊い犠牲を顕彰し、建立しました。

また、八幡神社境内には「児童遊園」の石碑があります。大正6年(1917年)、八幡小学校児童が海軍士官に短剣で殺害されるという事件がありました。その児童は当時鎮守府長官山下中将の子息でした。父親は悲しみ事件の起きた場所を買取り、子どもの遊園地にしました。こんな悲惨な事件が起きないようにと祈りをこめたものでしょう。



役夫死者の碑



児童遊園の碑